





襄(襄)

襄の古字は。衣とととの合字です。は、人が土仕事をしている形です。襄は、発音が「上」と全く同じなので「上のぼる」という意味に使われることが多く、人名などで“のぼる”と読まれますが、本義は“上衣をぬいで、口々にわいわい話しながら畑仕事をする”ことです。話しながら仕事をする、能率が“上がる”ので「上ジョウ」という音になったのかも知れません。

釀は、酒と襄との会意形声字です。“かもす”こと。酒がぶつぶつと言って発酵することです。“ぶつぶつ言う”意味の襄と、“泡が上がる”意味の上とどちらからでも理解できる字です。醸造(酒)。

讓は、“ぶつぶつ言う”意味の襄と言とでできていて“たがいに自分の主張を思いきり言い合うのが本義です。酒が十分にぶつぶつ言えば、それが止んだとき、酒がりっぱにでき上がるように、人も十分に言いたいだけ言えば、自然と相手の立場がたがいによくわかりますので、“ゆずる”気持が自然と出てきます。讓は、今はもっぱら“ゆずる”意味に使われますが、本義が主張すべきことを十分に主張することにあるのは興味深いことではありませんか。「謙讓」とは、決してただ人の言

うなりになることではありません。

穰は、禾(稻)と、酒が醸造される意味の襄とで、“稲が豊かにみのる”ことを表わした字です。「五穀豊穰」。人名では“みのる”と読まれます。

嬢は、醸造や豊稔の意味の襄と女(むすめ)とで、“りっぱに一人前に完成したむすめ”という意味を表わした字です。良い女よむすめという意味の「娘」は、嬢と発音も意味も同じなのですが、今では、娘は“むすめ”、嬢は“お嬢さん”というように使い分けされています。

壤は、畑仕事をする意味の襄と土とで“穀物を作り育てる土”という意味を表わしています。「土壤」とか「壤土」というのは、単に“土地”という意味ではなくて、“耕作のできる良い土地”という気持がこめられているのです。「天壤無窮」の「天壤」も同様に単に天地という意味ではありません。“物を生み育てる大地”という意味があるのです。

攘は、口々に言い合う意味の襄と手との会意形声字です。相手の意見を口でしりぞけるばかりでなく、手まで使うのが「攘」です。“手でしりぞける”つまり“はらいのける”ことです。「尊皇攘夷」は、皇室を尊えびすび、夷(外国人)を日本から追い払うという意味で幕末時代に口にされた言葉です。